

平成25年度県小教研学習指導改善調査結果を受けての取組

加茂市立須田小学校

自分の思いや考えを伝え合い、学び合う子の育成

～認め合う学級づくりと各教科での話し合い活動を通して～

1 学習面における児童の実態と課題

＜全国学力調査の結果から＞

- ・国語では、どの学年も問題文をよく読まないための誤答が多かった。長文の中の一部分から判断して解答してしまう傾向にある。
- ・作文問題では、問題として提示された内容を正しく把握せず、余計な情報を作文に取り入れてしまっていた。また、自分の知識や体験を入れて詳しく書いたり、数値を入れて自分の考えや意見を書いたりできない児童がいた。
- ・算数では、問題をよく読まない、問題の説明を捉え違えているところがあった。
- ・考え方を説明する際、必要な一文や表現が落ちていて説明不足となっていた。

＜校内研修の成果から＞

昨年度までの4年間は、特活での学級づくりと「書く力」をつける国語科学習の二本立てで取り組んできた。その結果、

- ・友達によさや考えを認める雰囲気が出てきた
 - ・各学年のスキルを意識した文章が書けるようになってきた
- という成果をあげることができた。

その半面、学級会では話し合いが活発であるにも関わらず、それが授業場面では生かされないという課題も残された。そこで、今年度は、特活で話し合いの素地づくりを継続して行いながら、各教科（国算社理）の学習場面においてもそれが生かされ、児童が互いに学びを共有することができる表現力を育むことをめざすことにした。

これらの実態を踏まえて、下記の通り校内研修と授業改善に取り組んできた。

2 校内研修

＜目指す子どもの姿＞

- ・相手を意識して伝わるように話したり、自分の考えと比べながら聞いたりできる子
- ・多様な考えを尊重し、自分の考えを振り返り深めることができる子

① 思いや考えを伝え合うことー学び合いー

これは、「生きる力」として必要なコミュニケーション能力でもある。あらゆる場面でこの力をつけるようにする。

② 認め合う学級作り

活気あふれる授業展開を築くには、自由に考えや意見を言い合える、安心感のある温かい雰囲気のある学級づくりを目指す。

③ 話し合いで求める表現力

個々の表現を大切にしながらも、発達段階に応じた基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、言語意識を持たせるようにする。(5つの言語意識)

- | | | |
|-----------|-------|-----------|
| ①課題（目的）意識 | ②相手意識 | ③状況（場面）意識 |
| ④方法意識 | ⑤評価意識 | |

研究仮説

○話し合いの論点が明確で、自分の考えを持てる課題を設定し、学び合いの場を工夫することによって、児童は自分の考えを深めることが出来るであろう

具体的な取組

<学級作りについて>

○認め合う雰囲気作りのための取組…クラス会議プログラムを取り入れる

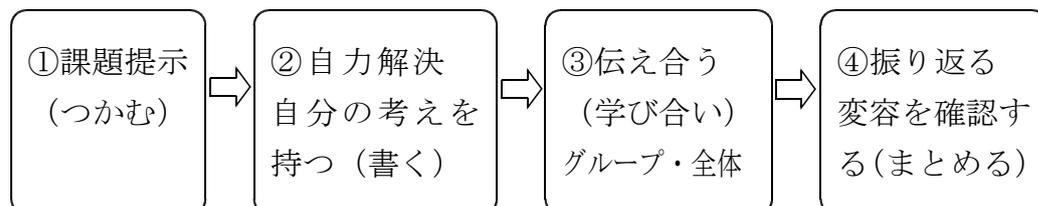
クラス会議プログラムとは… 対等な立場で話し合いに参加できるようになることをねらいとした話し合い活動である。「円形になる」「『いいところ見つけ』のような、話し合いを行うための素地づくりの活動を入れる」「議題はクラスの実態に応じた身近な問題」を取り上げ、「話し合ったことの効果は一週間で見直す機会をもつ」といった特徴があげられる。

<授業づくりについて>

○学び合いが成立するために、学び合いの視点を明確にし、授業の工夫を行う。

- ・形態の工夫…ペアトーク、グループトーク、全体での学び合いを取り入れる。
- ・伝える工夫…書く活動（自己の解決方法の文章化）を取り入れる。
- ・スキルの活用…発達段階に応じた話す・聞く・書くスキルの指導を行う。

○学習過程



＜これまでの授業実践＞

＜6月の実践＞ 2年 国語「スイミー」

○授業の様子・成果と今後の課題等

◇登場人物の気持ちを考え、台詞を追加するなどして、オリジナル紙芝居のもとを作ることを単元のゴールに据える。実際には生活科で紙芝居を作り、保育園訪問で読み聞かせる。

- ・全員参加型のペアトークを取り入れたことは意義があった。ただし、有効と思えるグループとそうではないグループがあった。

- ・ペアでの話し合いを全体にどう広げていくか、低学年・少人数学級でのペアトークのやり方を考えていく。



＜7月の実践＞ 1年 算数「のこりはいくつ ちがいはいくつ」

○授業の様子・成果と今後の課題等

◇金魚の数の求差、求補、求残について、反具体物（ブロック）に置き換えて操作する活動を取り入れながら、友達に説明する場面を多く取り入れる。

- ・ペアで説明し合うことにより、全ての児童が発表、安心して自信を持つことが出来ることをねらう。そのためには、ペアの関わらせ方や話し方を教えておく必要がある。
- ・グループトークやペアトークは経験を積むことが大切なので、低学年から取り入れて慣れさせていく。

＜9月の実践＞ 5年 算数「体積」

○授業の様子・成果と今後の課題等

◇表現力を高めるため、友達の意見を繰り返し言わせたり、補充させたりする。

- ・日頃から、他者説明、補足説明などを児童にさせている。それには、友達の意見をしっかり聞かなければならない。

- ・体積を求める授業では、式と図を関連づけて考えたり、説明したりする活動を仕組むことが大事。（図から式を読んだり、式から図を読んだり）



<主な成果>

ペアトークやグループトークなどでは、ノートの記述をもとに自分の考えを伝えることができるようになった。しかし、それを全体の中で活発に伝え合い、意見交換して考えを深めるまではまだいたっていない。

また、ペアトークやグループトークは、低学年の頃から経験を積ませて鍛えることが必要であるが、低学年では教師の支援をかなり必要とする。各グループの話し合いの様子を見取るのも難しい。ねらいに沿った話し合いを成立させるために、話し合いの話型指導をし、ペアやグループ編成に配慮しながら経験を積ませていきたい。

3 日常の取組

「課題提示と思考、まとめが見える板書」と振り返りが分かるノート作りの充実を図る。

①板書

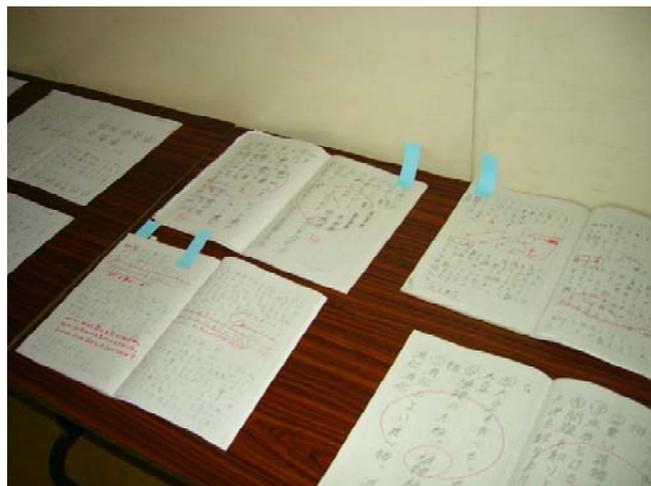
1時間の課題を赤枠で囲んだり、二重丸をつけたりして明示するよう統一している。教材を効果的に掲示したり、まとめがはっきりと分かるように色分けしたりする工夫をし、各学級で時折デジタルデータに残している。それを持ち寄り研修を実施する予定である。



②ノート指導

1学期に前年度の児童の手本になるノートを見せて、ノート指導をした。また、7月にノート指導職員研修を実施した。各学年の子ども達のいちおしノートや、逆に指導を要するノートを持ち寄り、担任が日々のノート指導の様子を説明しながら紹介し合った。子ども達に向けては、11月11日～11月22日まで、「いちおしノート展」を開催した。これは、全学年の各教科で、子ども達に紹介したいノートを担任が選び、廊下に展示するものであり、おすすめノートを見ることで、子ども達がノートの使い方や内容、書き方などを参考にしてくれることを願っている。

<いちおしノート展>



③計算力と漢字力の定着を図る

毎週木曜日には算数検定、月末には漢字検定を実施している。算数検定には、100問暗算問題と5分で10問100点問題があり、その都度結果を検定カードに記録し、学期末に児童がふり返しをしている。また、文章読解力をつけるため、活用問題のあるワークテストと活用プリントのいずれかを月1回程度実施している。

漢字や活用問題の結果については、学年便り等で保護者にも合格率を知らせている。

4 その他

○家庭との連携

- ・夏休み前の地区懇談会資料として「家庭学習のススメ」を配布した。
- ・各学年で、内容や学習時間を記入できる家庭学習カードを作成し、毎日点検している。

○Web配信診断問題の活用

過去問題とサポート問題を利用したり、月曜日のSUT（20分）を利用して児童の落ち込んでいるところを復習している。